

おぼろげな秋の会ニュース

新しいみのりの秋がきました

館長 米田佐代子

この夏、らいてうの家では新しい経験がたくさんありました。7月5日の子どもまつりには、ベビーカーを押した若いお父さんお母さんと子どもたちが大勢参加、読み聞かせやアフリカの太鼓ジャンベに大喜び、地元の新聞や有線放送で紹介され、「あずまや高原ってどこ？」という人たちが来てくれたのです。12日の「戦争体験を語る会」では、参加者も自分の体験を語り、平和への思い

を深くしました。8月になって佐藤真子さんの「らいてうをうたうコンサート」も大成功。送迎バスも満員になりました。9月の早乙女愛さんの映画会も初めての試みでしたが大勢の参加を得て、早乙女さんの「父（勝元さん）の子育て」に笑ったりうなずいたりしました。

あずまや高原で地域懇談会開く
新しい試みとして、8月9日に「あずまや高原をいこいのひろばに育てる懇談会」をひらきました。上田市真田地域自治センター長・笠原さんやあずまや高原別荘自治会長・渡辺さん、葉草園を

たのしかったネ 子ともまつり



分身のように愛してきた牧さんをはじめ、地域でさまざまな活動をしている方たちと会員がはじめて一堂に会し、この地がリゾート地化されず自然と静けさを守り続けてきたことを大切に、人びとが手をつないで平和に暮らせる場にしたいという思いで一致しました。らいてうの家をここに建設したことは「正解」だったと実感、来年はこの話し合いをもとにした活動をすすめたいと思います。

今年度の行事は、上田市の「わがまち魅力アップ応援事業」の助成をいただいで、バスもチャーターできました。来年度はどうしようと思ってきましたが、大河内昭子さんから「バスチャーターの費用を」というご寄付をいただきました。来年はいっぱいバスを走らせますからお楽しみに。
大河内さんありがとう！

そして4月総会でもお願いすることになった活動のための寄付のお願いも大勢の方からのご好意で、続々集まりつつあります。感謝の意をこめて「らいてうの家 はる・なつ・あき・ふゆ」を紹介する冊子を作成中です。ご寄付の一部を活用して二〇一一年「青鞥」創刊百年記念の企画もすすめることにしました。来年はその「プレ企画」の講座もひらきます。

来年はどんな年になるでしょうか。はっきりしているのは「核なき世界」にむかってわたしたちがいっそう大きな声をあげなくてはならないことです。それがらいてうの「こころざし」でした。今こそ「らいてうの出番」です。がんばりましょう。

発行
平塚らいてうの会
〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ヶ谷
4-11-9-303
TEL・FAX
03-3401-6383

上田市発足3周年記念・わかまち魅力アップ
 応援助成事業

大成の「佐藤真子コンサート」



美空ひばりの「一本の鉛筆」を
 熱唱する佐藤真子さん

8月23日、空は一面のいわし雲で秋の気配。ら
 いてうの家は、ご招待を含めてホールからあふれ
 た人がベランダやロフト、和室や廊下にもならぶ
 大盛況でした。送迎バスも「新聞を見たので」と、
 飛び入りもありこれも超満員の盛況。帰りは乗り
 きれなくなって地元の方に送っていただくことも
 ありました。

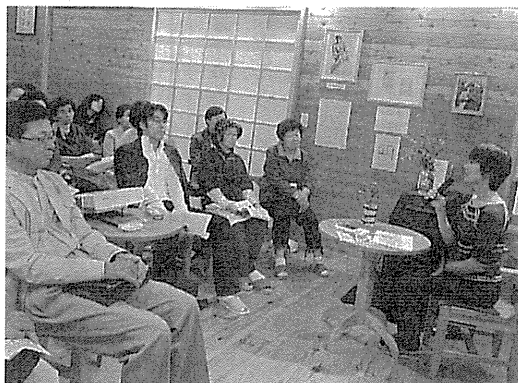
佐藤さんは「親子三代」できてくださり、写真
 家の嬉野京子さん、ジャーナリスト関千枝子さん
 なども来場。また、真田町の知的障害者施設・か
 りがね学園からも大勢参加してくださいました。
 「ここで『元始』を歌いたかった」という佐藤

真子さんの歌は圧巻。大河内昭子さんご寄贈の電
 子ピアノも大活躍して、「元始、女性は大陽であ
 った」「お百度詣」美空ひばりの平和の歌「一本
 の鉛筆」、ヒクメットの「死んだ女の子」、カザル
 スの「鳥の歌」などに、「涙が出た」という
 感想も。

軽快な奥村博史「ちんころたんころ」も披露さ
 れ、最後に全員で「元始」の歌を大合唱しました。
 作曲者の小林南さん（小林登美枝さんの娘さん）
 が指揮をかって出る一幕もあって、らいてうの家
 にふさわしいひと時でした。

映画「軍隊を捨てた国 コスタリカ」と
 早乙女愛さんのお話

09年第二回らいてう講座は9月12日、「家」で
 開催され、菅平ペンションの人たち、別荘のご夫



早乙女愛さんのお話に聞き入る
 参加者のみなさん

妻、地元
 九条の会
 や長野大
 学の学生
 などな
 ど、いつ
 もの顔ぶ
 れに加わ
 り、大勢
 でにぎや
 かに行わ
 れまし
 た。

憲法12条、常備軍の禁止

コスタリカは九州と四国程度の面積に450万
 人が暮らす国。国家予算の四分の一を教育費とし
 て使い、すべての子どもに教育を受けさせること
 を優先し、施設は二の次と聞き、「オーツ」と拍手。

1949年新憲法で常備軍を禁止。1987年
 アルベルト・モンへ大統領は、永世非武装中立を
 宣言、あとを受けたオスカル・アリアス大統領は
 「周辺国の平和なくして自国の平和なし」と、中
 米各国の紛争を消しに行くなど、外交手腕を發
 揮、その功績により1987年ノーベル賞を受
 賞。

子どもたちの明るさが強く印象に残り、明日へ
 の活力になる映画とお話でした。

(山田 繁子)

日本女子大学・新学長を表敬訪問

7月9日、日本女子大の蟻川芳子学長(写真前



列向かって右)を
 米田会長、折井副
 会長など5名で表
 敬訪問しました。
 明るい学長室で和
 やかに1時間ほど
 懇談、あわせて2
 011年「青鞥」
 100年記念事業
 へのお力添えをお
 願いました。

70年の記憶 戦争体験を語る



7月12日、らいてうの家で4人の女性が語った戦時体験は、集まった人びとの胸に沁み入るものでした。

三石千代子さん、宮島満里子さんは東京で女学生として生活し、勤労働員で工場にいき働いたとのこと。そして神宮外苑での学徒出陣式に見送りの一員として参加したときの、

雨中行進をする学生たちの軍靴の音がまだに耳に残るといいます。また空襲のなか逃げ惑い、やっと生き延びたが同級生はおおぜいが亡くなったということでした。

中村秀子さんは東京から上田へ昭和19年に疎開し、上田の女学校4年に編入。しかし学校では開墾した畑にジャガイモやサツマイモを作ったり、軍服を縫うことを強制され、学校で勉強した記憶はないといっています。

竹中正枝さんは女学生のとときの日記を披露され、当時いかに自分が軍国少女として教育され、洗脳されていたかを話されました。その後、参加者からも各自の体験が話され、こ

のような体験を今こそ語りついでいかねばと、強く思ったのでした。

(杉山 洋子)

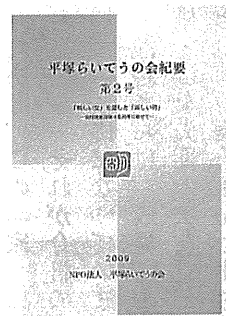
写真(上) 右から竹中正枝、中村秀子、三石千代子、宮島満里子さんのみなさん。(下)参加者のみなさん



『紀要』2号「オモシロイ」と評判!

『紀要』ってムズカシソー、と思わないでください。今年刊行の2号は、今までらいてうの陰にかくれがちだった、パートナー・奥村博史をとりあげた「本邦初の特集」です。

お孫さんにあたる奥村直史・築添正生のお二人がはじめて明かす「祖父と祖母」の「素顔」がおそらく、と大評判。ほかにも一躍有名になった博史の「魯迅臨終の囃」をめぐるエピソード、上



田市画壇の重鎮米津さんや講演「博史とらいてう」を語り続けてきた宝井琴桜さんのエッセイ、博史の珍しい舞台写真など多彩です。

なお、来年は『信州と青鞥』がテーマです。乞うご期待。

お申し込みはらいてうの会へ(700円)。

「赤い鯨と白い蛇」上映会のお知らせ

日時 10月31日(土) 1:30~4:30

会場 日本女子大学成瀬記念講堂

参加費 1500円

主催 らいてうの記録映画を上映する会

*主演の香川京子さんと大竹洋子(東京国際女性映画祭ディレクター)さんの対談を予定しています。

お申込み・お問合せは「らいてうの会へ」

電話 03(3401)6383

10月15日以降 03(3818)8626

青鞥100年記念プレ講座(予告)

2011年は、「青鞥」発刊100年、らいてう生誕125年、そしてらいてう没後40年にあたります。らいてうの会では『青鞥』発刊100年にあたって記念イベントを検討中です。どうぞおたのしみに。

2010年「プレ『青鞥』100年」の講座

日時 2010年2月13日(土)

講師 小森陽一さん(東大大学院教授)

「漱石とらいてう」(仮題)

場所 未定(都内を予定)

一九七二年、神戸で開かれた「平塚らいてうをしのぶ展」の呼びかけ人

池辺節子さんのお話

6月15日、芦屋からいらっしやった池辺節子さんにお会いして、らいてうの思い出などをお聞きしました。兵庫の母親大会が無事終わってほっとして上京したの、とのことでした。池辺さんは、今年卒寿を迎えられたとはとても思えない、たおやかな麗人でした。長年、日本舞踊をやっていたら、最近も舞台にたったばかりとか聞きました。

「平塚らいてうをしのぶ展」は、1972年3月1日から5日まで神戸・三宮国際会館で開かれました。らいてうが亡くなったのが七一年ですから、すぐその計画が始まったのだと思います。呼びかけ人は「婦人の家」の運営委員だった綾部なをさん、池辺節子さん、久保田千鶴子さん、小松ときさん、楊井義江さんの五人。「婦人の家」とは、女性たちの学習や憩いの場であり、運動の資料を保管したりしていた場所。吹田市にありました。「らいてう展」が終了



神戸での平塚らいてうをしのぶ展(1972年)こちら向きに立っている人、池辺節子さん

したあと、この「家」にらいてうの遺品が保管されておられ、それが今日の「らいてうの家」の遺品展示の基礎になっています。

池辺さんは、成城にお住まいだった作家加藤武雄・はな夫妻の次女で、成城学園に通っており、その姉の葉子さんと奥村敦史さんとは同じクラスだったそうです。学校は「家から走れば1、2分の距離で、時には、お昼に温かいライスカレーなどが届けられました。姉のクラスの敦ちゃんは今時々ふかしたさつま芋のお弁当を持ってきました。お芋の食べたかつた姉は、ライスカレーと交換してもらった」などという愉快な話もあります。「姉について敦ちゃんの家に遊びに行つたこともあります。らいてうさんは出てきませんね。ルパシカを着た色の白い博史さんが遊んでくれたり、お茶やお菓子を持ってきてくれましたね」とも。加藤家で開かれる連句の会には、博史がよく行っていたとか、らいてうや加藤はなさん・中河幹子さんなど女性たちのグループ成城「草分け会」があった、という話なども出ました。

「らいてう展」に関する貴重な資料や写真を、池辺さんからいただきました。そして、大切にしていた博史が創った「帯留」は、らいてうの家に寄贈してくださるとのお約束でした。これはのちに私のところに送られてきて、すでにらいてうの家に展示してあります。(折井美耶子)

【事務局日誌】

7月1日 第2回常任理事会
7月5日 子ども祭り 於薬草園

7月9日 米田会長他日本女子大学新学長を訪問
7月12日 戦争体験を語る会 於らいてうの家
7月15日 第2回理事会開催
7月25〜26日 日本母親大会に参加 於京都

7月30日 記録映画を上映する会理事会に出席
8月2日 あずまや高原自治会懇談会に出席
8月9日 あずまや高原地域懇談会開催 於薬草園ログハウス

8月13日 「らいてうの会と家」の今後を考えるプロジェクト会議
8月23日 佐藤真子「らいてうをうたう」 於らいてうの家

8月31日 紀要第3号編集委員会
9月7日 記録映画を上映する会理事会に出席
9月10日 第3回常任理事会

9月12日 りいてう講座Ⅱ 早乙女愛 講演と映画の会 於らいてうの家

9月20日 源氏物語講座紫式部からのメッセージ 講師宮島満里子 於らいてうの家

9月26日 森のめぐみ講座Ⅱ 笹刈りと郷土料理 於「らいてうの森」・薬草園など

【事務所移転のお知らせ】
平塚らいてうの会事務所は、この度左記へ移転いたします。

〒112-0002 東京都文京区小石川5-10-1
20-5階 新電話 03(3818)8626

東京メトロ丸の内線・茗荷谷駅下車徒歩7分
10月13日(火) 移転予定。よろしくお願ひいたします。